

## 閉会中における調査報告

### 産業経済常任委員会

開催日 平成24年7月25日(水)

出席者 常任委員5名

説明員 上下水道部長 他

#### 所管事務調査

- ・ 湖南省下水道事業の概要について  
上下水道部長より説明



- ・ 施設視察

甲西北汚水中継ポンプ場

菩提寺汚水中継ポンプ場

#### 下水道事業の課題と今後の方向性について

本市の下水道事業は、昭和55年から事業に着手し、30年余りが経過した。普及率も平成23年度末で96.0%となり、県下でも高い水準にある。

今後、下水道事業を進める上においては、独立採算制の原則のもと、経営基盤強化に向けて最大の取り組みを行う必要があり、課題の抽出と整理を行い、

適正な下水道事業の運営を行うことが重要となってくる。

次の項目が課題としてあげられる。

- ①整備促進に関する課題
- ②施設老朽化の課題
- ③地方公営企業法の適用
- ④経営戦略プランの必要性
- ⑤維持管理の効率化
- ⑥水洗化の促進
- ⑦広報活動の充実と情報公開

### 上下水道の現状と将来予測について

上・下水道の現状の説明を受け、主に老朽施設の計画的な改築更新事業、適正な利用料金による財政基盤の強化、上下水道施設等の運営形態の整備などの必要性を感じた。また、危機管理体制の強化、耐震補強等の緊急時に強いライフラインの構築を行う必要もある。

### 平成24年度事業の概要

平成24年度下水道事業として、下水道工事 11件、雨水対策工事3件他があり、特に今後は雨水対策も重要になってくると思われる。

全体事業費として、7億8,700万円

〔内国庫交付金対象事業費 4億6,380万円〕

〔(国庫交付金 交付率 1/2) 2億3,190万円〕

#### (委員からの意見)

広報こなん7月号に「下水道事業の現状と財政状況」が掲載され、平成21年度末には借金(事業債未償還残高)が、184億円でピークに達し、現在は、179億円となっている。下水道普及率96.0%ではあるが、整備率の割には、使用料が伸びていない。未接続対策をしっかりと行い、接続率を伸ばしてほしい。また、県に対し「県から、企業への税金面での後押しを図れるよう要望できないか」との意見もありました。

- ・滋賀県下水道公社での研修  
流域下水道の維持管理と運営状況について  
処理場等の施設視察



### 流域下水道の維持管理と運営状況について

琵琶湖は日本最大の湖であり、滋賀県のみならず京阪神地域の貴重な水資源として大半の水需要をまかなっている。しかし、高度成長にともない、琵琶湖の水質汚染が深刻化してきた。これを防ぐために「下水道」は欠かせないものとして位置づけ、積極的に整備を進めている。その中心は、琵琶湖流域下水道であり、最大の処理区である湖南中部地域の下水道施設として浄化センターを設置してきた。

湖南中部浄化センターは、琵琶湖の富栄養化の原因物質である窒素とリンを除去する「高度処理」を行っている。また、下水処理によって生じる汚泥は、最終的に熔融スラグ化により減容化、安定化させて、建設資材等への有効利用を図っており、処理水や汚泥ができるだけ自然環境の負担にならないように努めている。

#### (委員からの意見)

計画処理水量が、現在は人口の半分であり、工場排水が入っていない状況であり、各市町の企業に対してのアプローチを。

県民に下水道事業をアピールするために、「下水道フェア」の他に、土、日曜日の見学会を入れてほしい。